

A flock of sheep is grazing in a vast, golden field under a clear sky. The sheep are scattered across the landscape, some standing and some grazing. The field is filled with tall, golden grass, and the overall scene is peaceful and pastoral.

マタイ

32

打ち砕かれつつ 心を深く耕そう

マタイ福音書13章1～23節

種を蒔く人のたとえ

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. 蒔かれた種と土地のたとえ 13:1～9

II. たとえで語る理由 13:10～17

III. たとえの解説 13:18～23

IV. まとめと適用

打ち砕かれつつ 心を深く耕そう





0. イントロダクション

カペナウムの再現図

メシアの生涯

宣教 → 拒絶 → 弟子訓練 → 十字架へ

イスラエル
(指導者)

① 観察

② 審問

③ 審判

ベルゼブル論争

バプテスマ

荒野の誘惑

弟子の召命

宣教開始

メシア的奇跡

安息日論争

たとえ話

五千人の食事

ペトロの信仰告白

山上の変容

最後の弟子訓練

エルサレム入城

最後の晩餐

紀元70年
エルサレム陥落



マタイ福音書によるメシアの生涯（時系列より内容重視）

	章	時代	おもな内容
出生	1～2	誕生	エレミヤの召命
大衆伝道 (公開)	3～4	宣教の開始	バプテスマ、悪魔の誘惑、ガリラヤへ
	5～9	宣教	山上の説教(5～7)、メシア的奇跡(8～9)
	10～12	衝突	12弟子の派遣、ベルゼブル論争
	13～20	弟子訓練	たとえ、信仰告白、山上の変容
弟子訓練 (限定)	21～25	最後の論争	エルサレム神殿での最終論争
	26～27	受難	最後の晩餐、裁判、十字架と葬り
	28	復活	復活、弟子たちへの最後の命令

メシアの活動は、弟子訓練に移行!!

- 「ナザレのイエスは、メシアなのか？」
- サンヘドリン(ユダヤ議会)の公式見解は、
 - ➡イエスの奇跡は、悪霊のかしら(サタン)の仕業
- メシアの活動の中心は、大衆伝道から**弟子訓練**へ
 - ➡対象は、イエスをメシアと信じる者たち

イエスの教えは、「たとえ」中心に!!

そもそも たとえ話とは？

- 誰でも知っていることに当てはめて、
難しいことを、分かりやすく説明すること。
- しかし、ベルゼブル論争後のイエスのたとえは…
 - ➡ 種蒔きは、当時の誰でも分かる当たり前のことだが、
何を意味しているか、それだけではさっぱり分からない。
- 勝手に解釈すると、とんでもなく的外れなことに!!
 - 例) とある集会。種が主役のテーマ讃美。

重要なのは、主イエスの解説 ➡ 種蒔きのたとえは基本!!



I. 蒔かれた種と土地のたとえ

マタイ福音書13章1～9節

本編 たとえ マタイ13:1～3

その日、イエスは家を出て、湖のほとり*に座っておられた。

すると大勢の群衆がみもとに集まって来たので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた。群衆はみな岸辺に立っていた。イエスは彼らに、多くのことをたとえ*で語られた。

*おそらく、山上の垂訓と同じ場所

*以前もたとえはあった(砂上の家 7:26)

➡今回は、言いつばなしで説明がない!!
しかも、たとえばばかり。



山上の垂訓の丘

蒔かれた種と土地のたとえ

■ マタイ福音書13:3～6

「見よ。種を蒔く人が種蒔きに出かけた。

蒔いていると、種がいくつか道端に落ちた。すると鳥が来て食べてしまった。

また、別の種は土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽を出した。

しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。

蒺藜かれた種と土地のたとえ

■ マタイ福音書13:7～9

また、別の種は茨の間に落ちたが、茨が伸びてふさいでしまった。

また、別の種は良い地に落ちて実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍になった。

耳のある者は聞きなさい。」

たとえ話の焦点は、種ではなく、蒺藜かれた「土地」

蒔かれた種と土地のたとえ

土壌	結果	意味
道ばた	鳥に食べられた。	
土の薄い 岩地	すぐに芽を出したが、 根がないため枯れた。	
茨の間	茨がふさいで 成長がとまった。	
よい地	30倍、60倍、100倍の 実を結んだ。	



Ⅱ. たとえで語る理由

マタイ福音書13章10～17節

ガリラヤ湖

本編

弟子たちの疑問 マタイ13:10

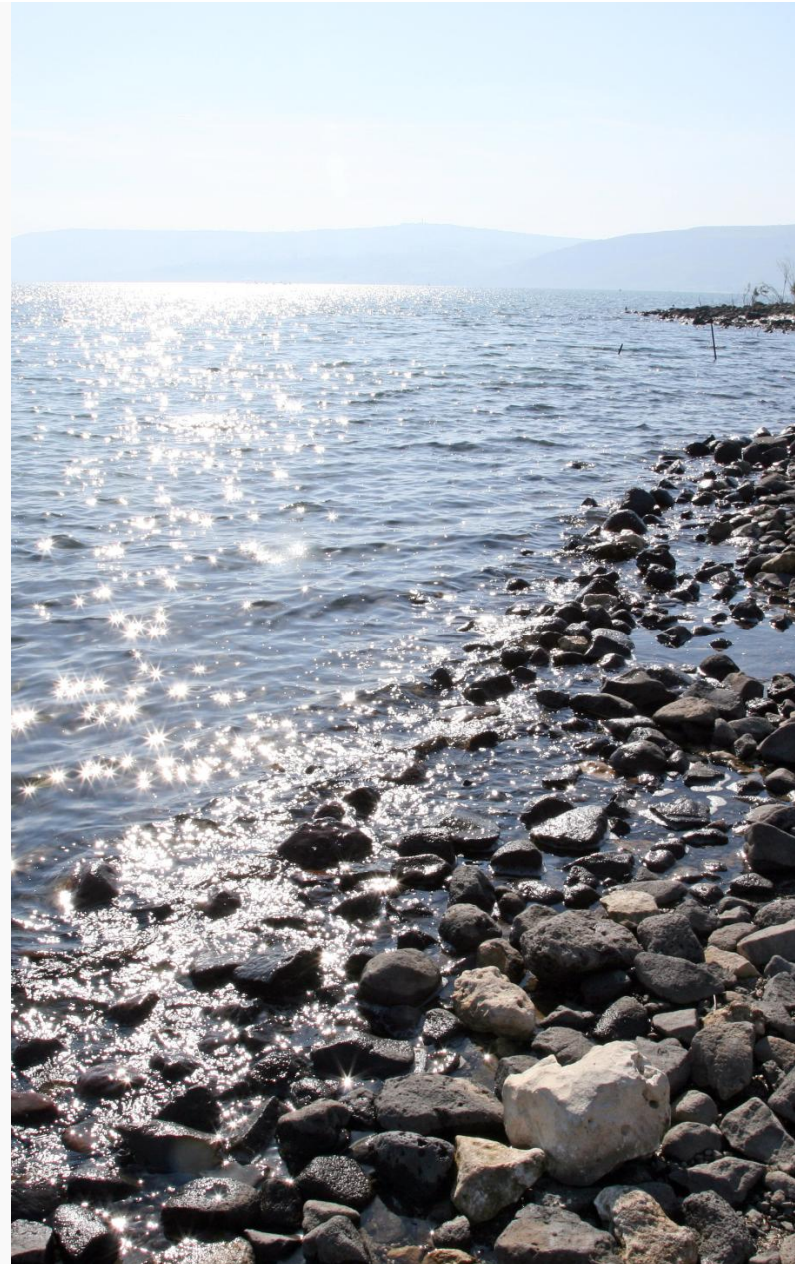
すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに「なぜ、彼らにたとえでお話しになるのですか」と言った。

■ たとえだけで解説もなく終了!!

➡なぜ、たとえばかりで話されるのか？

戸惑う弟子たち

■ 種蒔きの話は、きわめて常識的だけど、何を意味しているか、さっぱり分からない



本編

御国の奥義 マタイ13:11～12

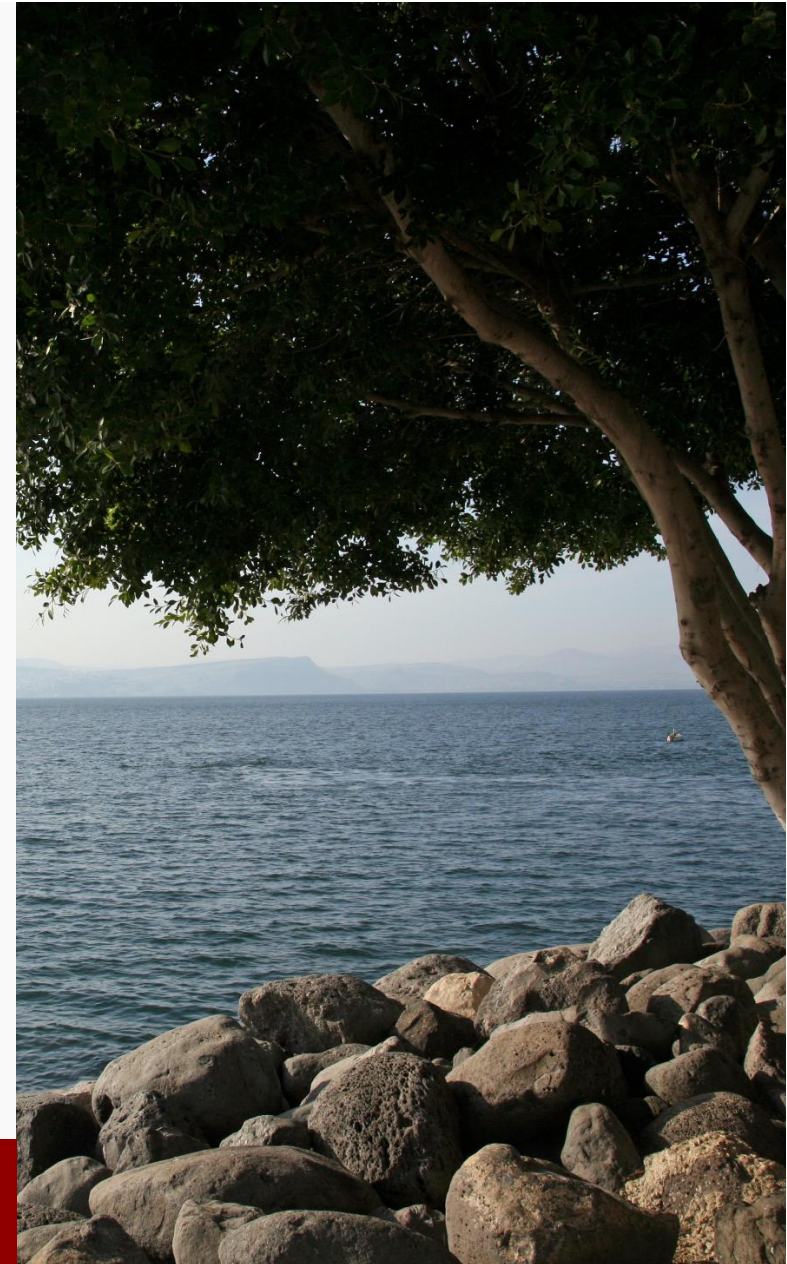
イエスは答えられた。「あなたがたには天の御国の奥義*を知ることが許されていますが、あの人たちには許されていません。

持っている*人は与えられてもっと豊かになり、持っていない*人は持っているものまで取り上げられるのです。」

＊隠されていた神の国(教会)

＊神の国についての知識

奥義は、信仰者にしか知らされない!!



神の国とは？ メシア拒絶以前

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国

⑤メシア的王国・千年王国

イスラエルが約束のメシアを受け入れれば、神の国が、地上に実現されるはずだった。

【地上での神の国】

神の国とは？ メシア拒絶以後

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

新天新地

【地上での神の国】

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国



④奥義としての王国

(恵みの時代≡教会時代)
メシアを拒否 ～ メシアを受容

本編

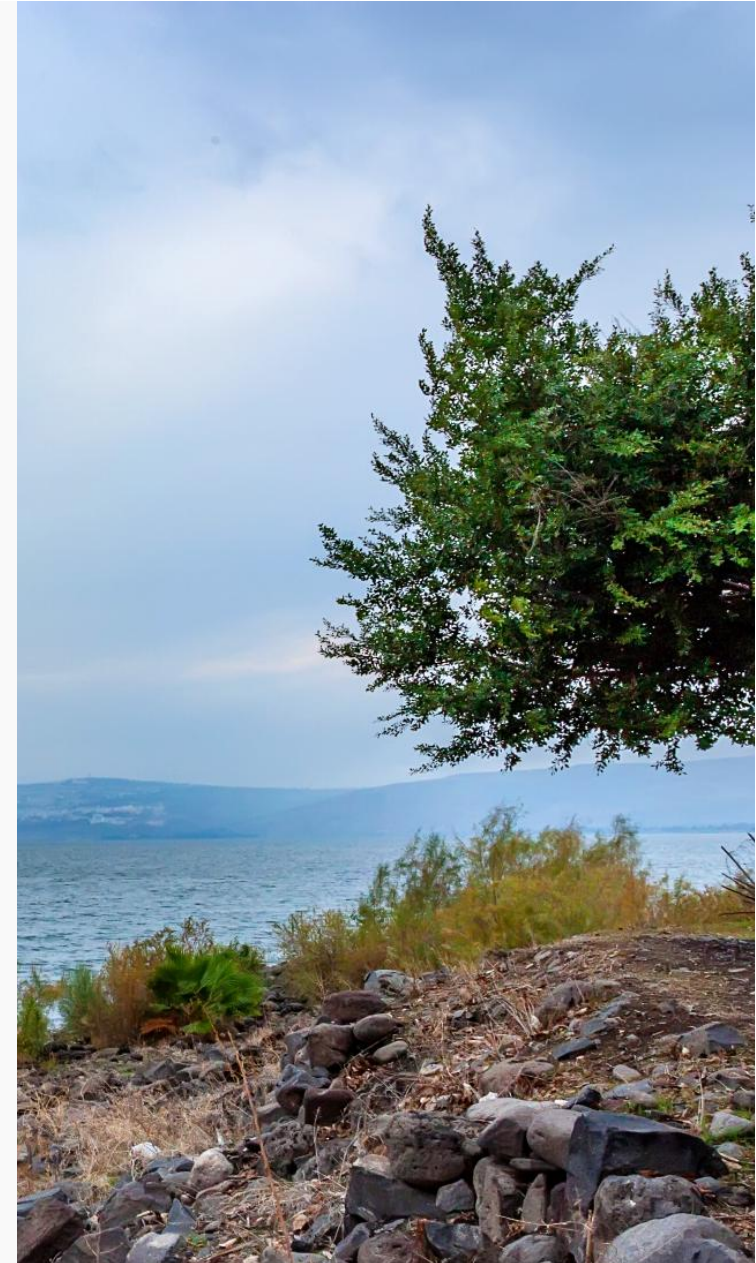
たとえで話す理由 13:13～14a

わたしが彼らにたとえで話すのは、彼ら*が見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、悟ることもしないからです。

こうしてイザヤの告げた預言が、彼ら*において実現したのです。

■ メシアの奇跡を見、真理を聞いたのに、
イスラエル*は、イエスを拒絶。

➡ イエスは、公的には、
たとえでしか語られない!!



本編 イザヤの預言 マタイ13:14b～15

『あなたがたは聞くには聞くが、決して悟ることはない。見るには見るが、決して知ることではない。』

この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、目は閉じているからである。彼らがその目で見ること、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返ることもないように。そして、わたしが癒やすこともないように。』

■ イザヤ召命時の主の命令(イザヤ6:9～)
➡イスラエルのメシア拒絶を預言!!



イスラエルの拒絶は
世の終わりまで

イスラエルがメシアを再び受け入れる時

■イザヤ6:11～13

私が「主よ、いつまでですか」と言うと、主は言われた

「町々が荒れ果てて住む者がなく、家々にも人がいなくなり、土地も荒れ果てて荒地となる。

主が人を遠くに移し、この地に見捨てられた場所が増えるまで。

そこには、なお十分の一が残るが、それさえも焼き払われる。

しかし、切り倒されたテレビンや櫟の木のように、それらの間に

切り株が残る。この切り株こそ、**聖なる裔**」

イスラエルの拒絶を終わらせるのは、**再臨のメシア**

本編

幸いな者 マタイ13:16～17

しかし、あなたがたの目は見えているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。

まことに、あなたがたに言います。多くの預言者や義人たちが、**あなたがたが見ているもの***を見たいと切に願ったのに、見られず、**あなたがたが聞いていること***を聞きたいと切に願ったのに、聞けませんでした。

*目の前のイエスこそ、イスラエルが待ち望んだ、預言されたメシアである。



主イエスを
信じる者は幸い



Ⅲ. たとえの解説

マタイ福音書13章18～23節

本編

メシアの解説 マタイ13:18

ですから、種を蒔く人のたとえを聞きなさい。

■ ここから、メシアによるたとえの解説が、弟子たちに向けて語られる。



本編

①道端のような者 マタ13:19

だれでも御国のことば*を聞いて悟らないと、悪い者*が来て、その人の心*に蒔かれたものを奪います。道端に蒔かれたものとは、このような人のことです。

*「種」=「(イエスの語る)御国のことば」

*「鳥(烏)」=「悪い者(悪魔・悪霊)」

*「心の状態」=「土地の状態」

①道端のような心に蒔かれた者
= メシアの言葉を拒絶する人



本編

② 岩地のような者 13:20～21

また**岩地に蒔かれたもの**とは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。しかし自分の中に根がなく、しばらく続くだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。

② 岩地のような心に蒔かれた者

= メシアをすぐ受け入れたが、
苦難や迫害で簡単に離れてしまう、
信仰のきわめて浅い人



本編

③ 茨の中のような者 マタ13:22

茨の中に蒔かれたものとは、みことばを聞くが、この世の思い煩いと富の誘惑がみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。

③ 茨の中のような心に蒔かれた者

= 御言葉を聞くだけで

思い煩いや富のことで心はいっぱい
行いが伴わない人



本編

④ 良い地のような者 マタ13:23

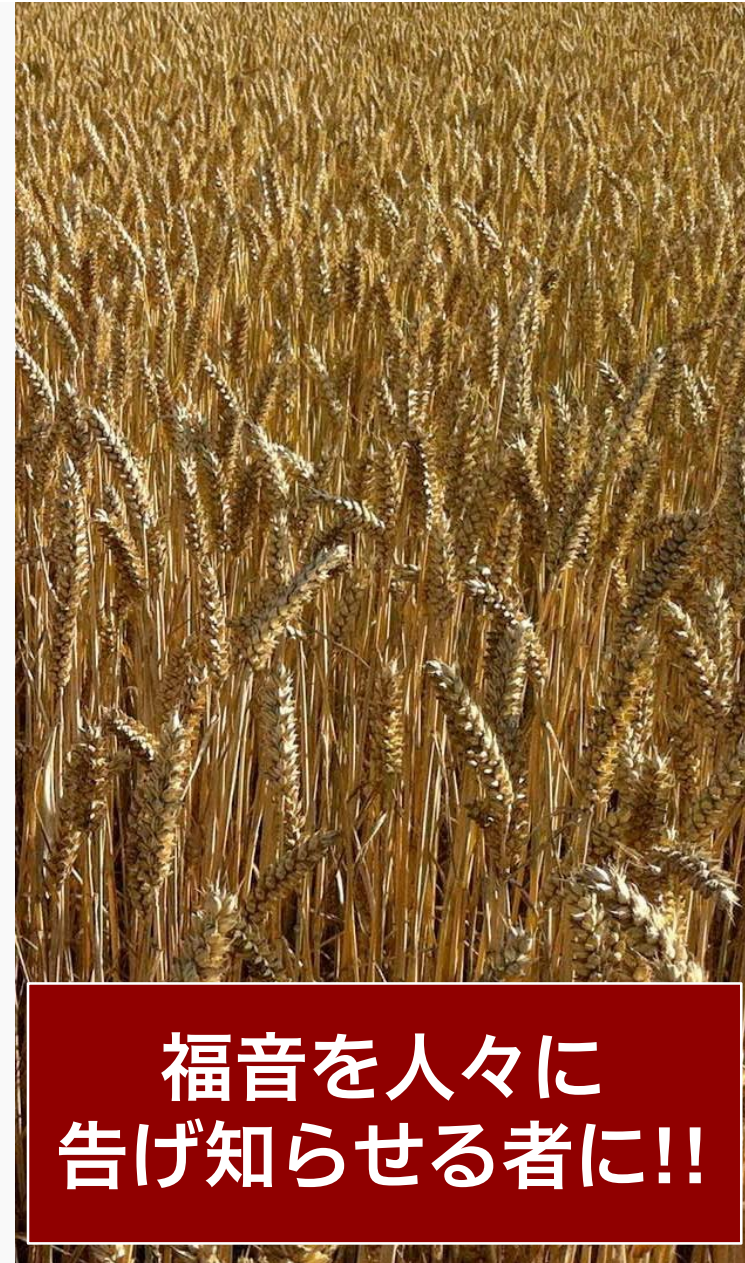
良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて悟る人のことです。本当に実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」

④ 良い地のような心に蒔かれた者

＝ 御言葉を理解し、多くの実を結ぶ人

「あなたがたは彼らを実によって見分けることになります。茨からぶどうが、あざみからいちじくが採れるでしょうか。マタイ7:16」

→ 御言葉の種は、御言葉の実を結ぶ



福音を人々に
告げ知らせる者に!!



IV. まとめと適用

打ち砕かれつつ、心を深く耕そう

イスラエル・麦畑

たとえのテーマは、「奥義としての神の国」

■ 預言されたメシアを、イスラエルが公式に拒絶。

→ この時から、**奥義としての神の国**の時代が開始
隠されていた奥義の時代が明らかに!!

■ **奥義としての神の国**の時代(恵みの時代≡教会時代)は、
イスラエルがメシアを受容する世の終わりまで続く。

神の国とは？ メシア拒絶以後

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国

⑤メシア的王国・千年王国

イスラエルが約束のメシアを受け入れれば、神の国が、実現されるはずだった。

【地上での神の国】

神の国とは？

メシア拒絶以後

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

新天新地

【地上での神の国】

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国



④奥義としての王国

(恵みの時代≡教会時代)
メシアを拒否 ～ メシアを受容

種蒔きのたとえが示す 奥義の時代

- イスラエルのメシア拒絶以降、**奥義としての神の国**が示された。
- 奥義の時代、**みことばを受け入れるかどうか**が、命運を決める
 - 十字架前 …イエスを**メシア**と信じるかどうか
 - 十字架後 …イエスの**福音(十字架と復活)**を信じるかどうか
- みことばを受け入れる人は少ない。
みことばを伝えるようになる人は、ほんのわずかしかない

種 = みことば

土地 = 心の状態

土壌	結果	意味
道ばた	鳥に食べられた。	拒絶した者から、 悪魔が御言葉を奪い去る
土の薄い 岩地	すぐに芽を出したが、 根がないため枯れた。	信仰が浅い者は、 すぐにつまづく
茨の間	茨がふさいで 成長がとまった。	世の思い煩いや富に捕らわれ 成長できない
よい地	30倍、60倍、100倍の 実を結んだ。	御言葉をよく理解し、 福音を多くの人に伝える

教会時代の四種の人々の霊的状况

道ばた	福音を拒絶した者	救われていない (福音を拒絶)	外見上の 区別は つかない!!
土の薄い 岩地	すぐにつまづいた 信仰の浅い者		
茨の間	世に心捕らわれて 成長が止まった者	救われている (福音を受容)	
よい地	御言葉を知り、 福音を伝える者		

四種の人々の割合は？

道ばた

岩地

茨の地

よい地

種を蒔く人の主権は神にある

- 主イエス直々のタイトルは、「種を蒔く人のたとえ」
 - ➡ 主体は、「種を蒔く人 (the sower)」 = **神**
- この時代、神が、すべての人に福音の種を蒔かれる。道端のように頑なな人の心にも。
 - ➡ 受け入れるかどうかは、その人の心次第
 - ➡ 受け入れた後の霊的成長も、その人の心次第

求められる責任は、応答し、応答し続けること

①岩地からの脱却 信仰の浅い、靈的幼子から脱しよう!!

■求められている信仰の成長 ヘブル6:1~2

「ですから私たちは、キリストについての初步の教えを後にして、成熟を目指して進もうではありませんか。死んだ行いからの回心、神に対する信仰、きよめの洗いについての教えと手を置く儀式、死者の復活と永遠のさばきなど、基礎的なこと*をもう一度やり直したりしないようにしましょう。」

当然知っておくべき初步の教え!!

*救い(義認)、信仰の成長(聖化)、教会の権威(教会論)、復活(栄化)、主の再臨と永遠の裁き(終末論)

②茨からの脱却

思い煩いから自由になるために

■へりくだって主にゆだねる | ペテロ5:5～7

「みな互いに**謙遜**を身に着けなさい。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」のです。

ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

あなたがたの**思い煩い**を、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。」

へりくだることは、思い煩いを主にゆだねること

③実を結ぶよい地へ

信仰の確信を得るために

■行いの実を結ぼう マタイ7:20～21

「こういうわけで、あなたがたは彼らを**実**によって見分けることになるのです。わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。」

■今の時代の主の御心の中心 ➡十字架と復活の福音宣教

信仰と恵みによる救いの福音を携え、遣わされているか？

結ぶべきは、福音の御言葉の実

- 福音の御言葉の種は、福音の御言葉の実を結ぶ。
- 信仰者の使命は、福音の御言葉の実を結ぶこと。
心から喜んで、福音を宣べ伝える者になるためには、
御言葉を慕い求め、日々、心を打ち砕かれていくこと。
- 砕かれた心を主が用いて、福音を告げる器とされる。

福音を告げるのが私の使命、救いは主がもたらされる!!

★ 打ち砕かれ、心を耕していこう ★

■福音を信じて救われた心には、頑なな石がごろごろと。
御言葉に従い歩むほど、罪に気付かされ打ち砕かれて…。
主に打ち砕かれて、私たちの心は柔らかく耕されて行く。

■日々、御言葉に従い、主の御顔を慕い求めよう。
砕かれた心で、福音を携え、遣わされて行こう。
砕かれ、主に委ね、遣わされ、福音を宣言していく。
その課程のただ中で、救いの確信は強められていく。

てん　　とう　　わたし　　つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください

わたし　　かみ　　こ　　しゅ
私たちは、神のみ子、主イエス・キリストが、

わたし　　つみ　　あがな　　じゅうじか　　し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか　　ほうむ
②墓に葬られ、

みっかめ　　ふっかつ　　しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。

わたし　　うち　　しゅ　　いのち　　みことば　　ま
私たちの内に、主の命の御言葉が蒔かれています。

おも　　わずら　　しゅ　　わたし　　こころ　　ひび　　う　　くだ
思い煩いを主にゆだねます。私の心を日々、打ち砕いてください。

よろこ　　ふくいんせんきょう　　つかわ　　み　　むす　　もの
喜んで福音宣教に遣わされ、実を結ぶ者としてください。

わたし　　おぼ　　いの　　ひとびと　　えいえん　　おうこく　　まね　　い
私たちが覚えて祈る人々を、永遠の王国に招き入れてください。

しゅ　　な　　いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」